

これからも ずっと、親子でいい歯



5月28日、保健センターで「第56回 親子でいい歯コンクール」がありました。

このコンクールは、親子で歯の大切さを知ってもらおうと毎年行われているものです。この日は、平成18年度3歳6か月児健康診査を受けた198名の中から、虫歯のないきれいな歯をもつ5組の親子が参加されました。

歯科医師による審査の結果、日野町代表に、**島山香菜美ちゃん・清香**



▲参加された皆さんと審査された**神山**歯科医師

さん親子（湖南サンライズ）が選ばれました。

島山さん親子は、日野町代表として、6月21日に行われた東近江地域のコンクールに出場されました。

おめでとございます。これからもずっといい歯でいてくださいね。

お菓子やジュースなど、
甘いものを食べた後は
必ずお茶を飲むように
しています。



▲島山香菜美ちゃんと清香さん

綿向雑感

日野町長 藤澤直広

綿向山に夏

雲がゆったり
と浮かんでい
ます。蒲生氏
郷は、会津若

松からの行軍
の途中、近江
八幡の武佐宿
で綿向山を眺

めて「思いきや人のゆくえぞ定め
なき わがふるさとを よそに見
んとは」と詠んだといわれていま

す。氏郷は、ふるさと思いであり、
国替えになった伊勢松阪では「日
野町」、会津若松では「日野町通

り」（後に日火を嫌い甲賀町通
りと改名）という名前をつけてい
ます。石川啄木の有名な詩には、

「ふるさとの山に向かい言うこ
となし ふるさとの山はありがた
きかな」とあります。

「ふるさと」とは誰にとっても
かけがえのない大切なものなので
すね。

日野町もふるさと日野の自然や
歴史、文化を大切に思い、それら
をまとめた町史の編さんに取り組
んでいます。5月に2冊目の『近
江日野の歴史』第5巻「文化財編」
を発刊しました。今回の文化財編
は、日野鉄砲や曳山など興味深い

内容が盛りだくさんです。発刊記
念講演会では、講師の方が「日野
町はまるごと美術館、文化財の宝
庫」と感想を述べられ、うれしく
思いました。

さて、今、政治の分野でも「ふ
るさと」論議が盛んです。その一
つに政府が検討している「ふるさ
と納税制度」があります。「田舎

で育った人たちが都会に出て働き、
納税する。都会には税金が集まり、
田舎との格差が生まれている。だ
から、ふるさとを思う都会の人が

住民税の一部をふるさとへ納税で
きるようにしよう」とする制度の
ようです。都会と田舎の格差を是
正しなければならぬという機運

は望ましいことです。しかし、新
聞報道でも「個人の気持ちで行政
運営の基盤である税金が左右され
ていいのか」との指摘があるよう

に、格差是正の基本は、国が地方
財源をきちんと確保することです。
田舎には田舎の役割があり、国は
都会も田舎もあって成り立つもの
だと思えます。

田舎に暮らす私たちには、誇り
と愛着があります。「ふるさとは
近きにあるてつくるもの」との気
概をもってまちづくりを進めよう
ではありませんか。